

平成 27 年度研究計画

平成 27 年 4 月 1 日

港区立麻布小学 校長 菅野宏隆

「子どもが わかる できる 楽しむ 授業づくりー140 年の歴史を紐解く by Mathー」

1 2 年間の実践を踏まえ

麻布小学校では平成 25 年度から研究主題を「子どもが わかる できる 楽しむ 授業づくり」とし、算数科の「割合」に関連した学習内容に焦点を当て、授業の在り方を追究してきた。講師には(財)教育調査研究所研究部長・元台東区立根岸小学校長：小島宏先生、文部科学省・国立教育政策研究所教育課程調査官：笠井健一先生を招き、2 年間の実践を積み重ねてきた。小島先生には研究授業を中心に、笠井先生には日常の授業を中心に観ていただき、指導を受けている。

平成 25 年度 国立教育政策研究所 学力把握実践研究協力校 算数 委嘱

平成 26 年度 国立教育政策研究所 学習指導実践研究協力校 算数 委嘱

研究の柱は

- ① 児童の知的好奇心を刺激し、意欲を喚起する授業づくりをすること
 - ② 指導と評価と支援の一体化を授業の中で具現すること
 - ③ ノート指導と教室掲示を充実させ日常の授業と研究授業の距離を縮めること
- であった。算数の授業ではどんなことに留意し、どのようにつくっていくのかを学んだ土台づくりの 2 年間になったといえる。

この 2 年間の取り組みを受け、平成 27 年度からは港区研究奨励校を受け、研究をさらに進めることにする。

2 主題設定

平成 27 年度は、本校開校 140 周年にあたるため、この機会をうまく利用し、これからめた授業づくりをすることを考えていく。すなわち、学校の 140 年の歴史を算数科の活用の題材に役立てるといった発想である。学習したことを実際に使うことによって、習得した内容が確実に定着し、学習したことのよさを感じ得ることになる。しかし、時間的な制約や教師の余裕のなさ、力量不足からここまで到達することが難しいのが現状である。学習したことを実際に使うことによって、学習したことの手応えを感じ、楽しさを味わえることも事実であり、この積み重ねが児童の探究心を培うことにもつながる。

- ① I hear, and I forget. (聞いても忘れる)
- ② I see, and I remember. (見ると覚える)

③ I do, and I understand. (やってみるとわかる)

④ I use, and I appreciate. (使ってみると(活用)、よさがわかる)

この④の段階に焦点を当て、児童の確実な学習の定着と学習することの楽しさを味わうことを意図した授業づくりを行うことを目指し、この授業づくりの過程で教師一人一人の指導力の向上に努める。したがって、研究主題は2年間の実績を踏まえ、「子どもがわかる できる 楽しむ 授業づくり」を継続し、副主題に「140 年の歴史を紐解く by Math」を設定する。

3 平成 27 年度の取り組み

授業実践を通し、授業の進め方、テーマの捉え方を共通理解し、教師一人一人の指導力の向上を図る。

- | | | |
|-----------|--|-----------|
| 4月22日(水) | 平成 25・26 年度をふまえての算数授業の進め方と課題
指導を評価と支援の在り方 | 講師：校長 |
| 5月27日(水) | 達人に学ぶ講演会 | |
| 6月17日(水) | 授業研究①、支援の在り方 | 講師：小島宏先生 |
| | 1・2「あわせていくつ」 | 谷村祥子 |
| 6月24日(水) | 授業研究② | 講師：吉川成夫先生 |
| | 5・1「小数のわり算」 | 石野祥子 |
| 7月15日(水) | 授業研究③ | 講師：笠井健一先生 |
| | 3・1「あまりのあるわり算」 | 森和子 |
| 9月16日(水) | 授業研究④ 支援の在り方 | 講師：小島宏先生 |
| | 6・1「比」 | 福田久紘 |
| 10月 7日(水) | 授業研究⑤ | 講師：吉川成夫先生 |
| | 2・1「かけ算」 | 瀧島恭子 |
| 10月28日(水) | または11月4日(水) | 達人に学ぶ講演会 |
| 11月21日(土) | 開校 140 周年記念式典 | |
| 12月 9日(水) | 授業研究⑥ 支援の在り方 | 講師：小島宏先生 |
| | 1・1「ひきざん」 | 向井江美 |
| 12月16日(水) | 授業研究⑦ | 講師：笠井健一先生 |
| | 4・1「変わり方調べ」 | 與那覇俊 |
| 1月27日(水) | 達人に学ぶ講演会 | |
| 2月24日(水) | 授業研究⑧ 支援の在り方 | 講師：小島宏先生 |
| | 2・2「たし算とひき算」 | 一力友香理 |
| 3月 9日(水) | まとめ、紀要作成 | |

備考

- ① 指導案の内容を吟味し、特に支援の在り方を追究する。
- ② 日常のノート指導、教室掲示（既習事項とのつながり）を確認する。
- ③ 学校の 140 年の歴史を読み解き、算数科の授業と関連できるものを把握する。
- ④ 習得した内容を活用することの実践を通して共通理解し、授業づくりの論を構築する。

平成 27 年度 国立教育政策研究所 学習指導実践研究協力校 算数

平成 27・28 年度 港区教育委員会研究奨励校